

町代遺跡・町代2号墳

満濃町天神地区団体営ほ場整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査概報

1997年3月

満濃町教育委員会

例　　言

1.本書は、香川県仲多度郡満濃町大字長尾小字上田1925に所在する「町代遺跡(まちだいせき)・町代2号墳(まちだい2ごふん)」で実施した発掘調査の概要報告である。

2.調査は、満濃町教育委員会が調査主体となり、片桐節子が調査担当者として実施した。

3.調査にあたっては、以下の方々の協力を得た。記して謝意を表したい。

(順不同。敬称略。)

満濃町社会教育主事 平田友彦

秋山 保 岩倉 久雄 円藤 繁義 兼平聰明 京兼信善

田村 久雄 信里 芳紀 森澤 千尋 片桐 孝浩

4.本書の執筆・編集は、片桐が行なった。

5.本書で使用した方位は、国土座標系第IV座標系の北を示し、水平基準の数値は、標高を表す。
。図面の縮尺は、掲載内の図面内にスケールで示した。

6.本書で使用した遺跡略号は以下のとおりである。

SB・・掘立柱建物 SP・・柱穴

目 次

- 第1章 調査に至る経緯とその方法
- 第2章 遺跡の立地と環境
- 第3章 調査の結果
 - 基本土層
 - 調査の結果
- 第4章 まとめ

挿 図 目 次

- 第1図 調査区位置図
- 第2図 満濃町位置図
- 第3図 町代2号墳位置図
- 第4図 遺構配置図
- 第5図 SB-01平・断面図
- 第6図 SB-02平・断面図

図 版 目 次

- 第1図 (1)町代2号墳調査前状況(東方向から)
(2)調査区全景(東方向から)
- 第2図 (1)周濠完掘状況近景(北方向から)
(2)SB-01半裁状況(北方向から)
- 第3図 (1)SB-01完掘状況(北方向から)

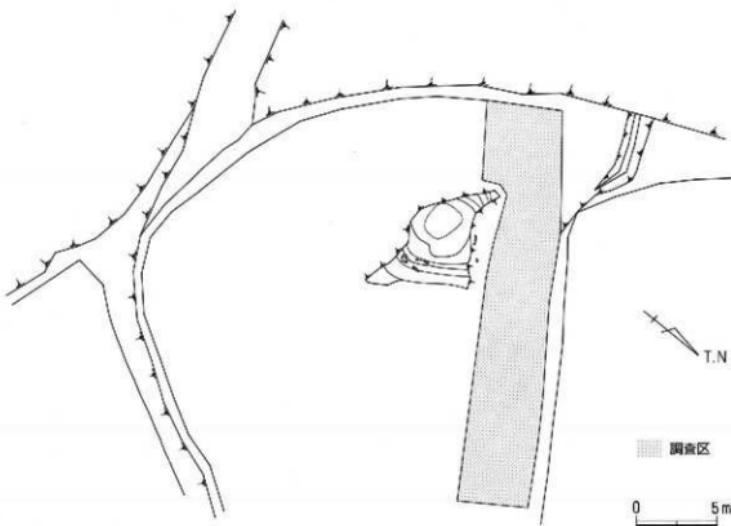
第1章 調査に至る経過とその方法

平成5年、仲多度郡満濃町大字長尾地区において農業基盤整備事業の開発が計画された。当該地区周辺には古墳の分布が広く認められており、今回の対象区では「町代1・2号墳」・「北山楠神社古墳」が該当することが確認された。満濃町教育委員会ではこの古墳の処遇について香川県教育委員会文化行政課の指導のもと、平成6年12月5日から同年12月14日（ただし、町代1・2号墳、北山楠神社古墳、七ツ塚7号墳、遺構確認地1ヵ所を含む）の期間で、岡 敦憲氏（多度津町教育委員会）によって確認調査を実施した。

その調査結果を踏まえて協議した結果、古墳3基とも現状保存をすることになった。しかしながら周濠については、その全容を確認するため本調査を実施することになったのである。

今回の対象は、「町代2号墳」であるが、確認調査の結果を踏まえ、今年度は古墳の北側のみ約112.9m²を平成9年3月3日～同年3月27日（実働14日）の期間で調査を実施した。なお、ここでは、確認調査の際埴輪片が出土している。

調査は周濠検出面まで重機掘削とし、それ以降は人力により遺構検出に努めた。その結果調査区東部において周濠を検出したが、それはさらに北側の水田下に続いており、地山面上において多数の柱穴を確認した。



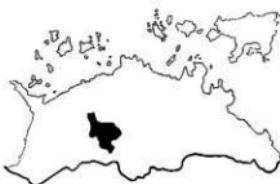
第1図 調査区位置図

第2章 遺跡の立地と環境

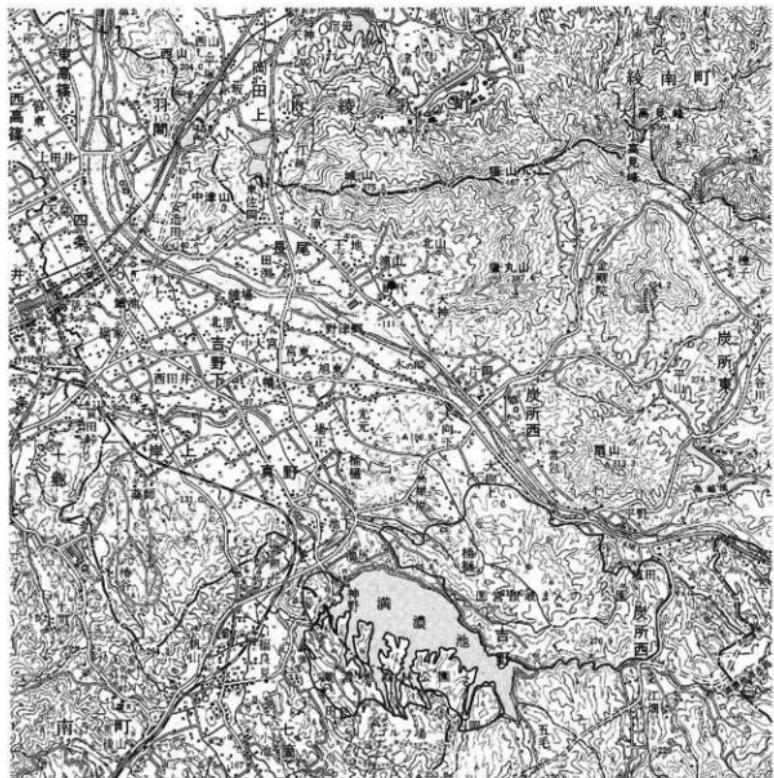
満濃町は、仲多度郡の南部に位置し、阿瀬山地中部の主峰大川山（1043m）西北の山麓から丸龜平野のやや南寄りに横たわる如意山（158m）の東麓にかけて展開する南北約7.5km、東西約9.5km、面積約53.63km²を有する町である。また、町の北は丸龜市及び綾歌郡綾歌町・綾南町、東は綾歌郡綾上町、南は仲多度郡琴南町・仲南町、西は善通寺市・仲多度郡琴平町の2市2郡6町に囲まれている。町の南西には全国1の規模を誇り、また町名の由来にもなった満濃池がある。

町内では、現在までのところ旧石器時代及び縄文時代の遺跡は確認されていない。また、弥生時代も遺跡としての詳細は不明であるが、大字公文で弥生時代後期の壺・甕・鉢が採集されている。その他、昭和24年9月に大字長尾字東佐岡の岩谷池の堤の下の傾斜地で平形銅劍2口、さらに大字吉野の八幡神社境内から銅鐸片も出土していることから近い将来弥生時代の遺跡は確認されるものと考えられる。

古墳時代になると、町内でも多くの古墳が確認されている。古墳時代前期・中期では富隈神社裏の古墳・黄金山古墳・七塚古墳があり、中でも七塚古墳では5号墳は町内唯一の前方後円墳である。古墳時代後期では現在のところ約20基が確認されている。その多くは大字長尾から羽間にかけての丘陵上に残っているが、今回調査を実施した「町代2号墳」も、満濃町の東部、土器川東の丘陵地帯に立地する。2号墳の東約100mには原型をほとんど留めていないものの「町代1号墳」、さらに東約205mには横穴式石室が露呈した「北山祐神社古墳」がある。



第2図 満濃町位置図



第3図 町代2号墳位置図

第3章 調査の結果

基本土層

本調査区の基本土層は、基本的には耕土直下、黄褐色粘質の地山層に至る。しかしながら、調査区の西側先端部は水田造成時の客土が認められる。古墳は墳丘を多く削られている。西側は約2m低い水田、南は約1.5m低い水田、北は約0.5m高い水田である。なお北西の境界位置には2基の五輪塔がある。

調査の結果

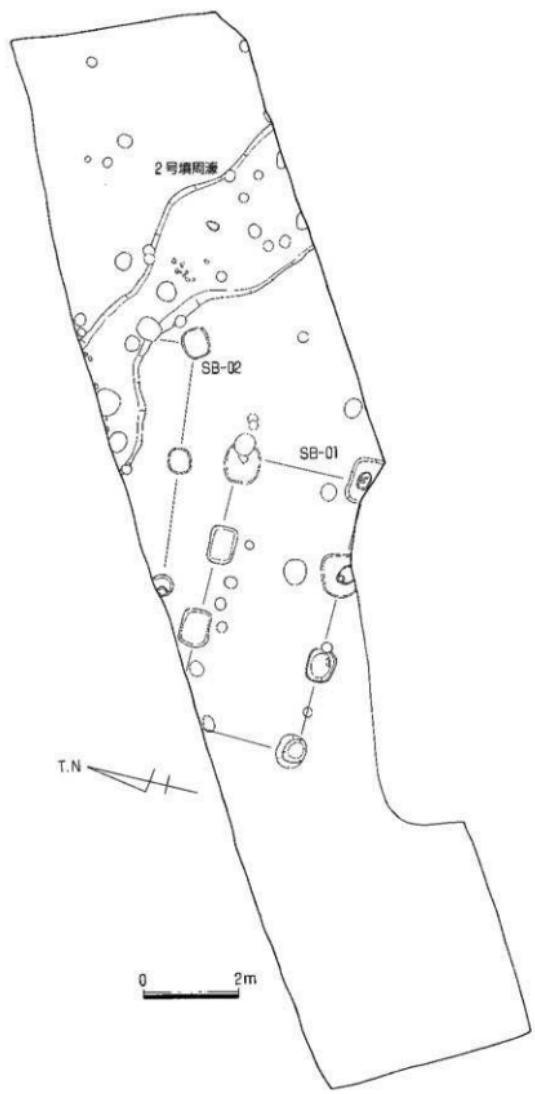
今回の調査は2号墳の周濠確認であったが、調査区を設定して調査をすすめていったところ、多くの柱穴を検出した。それは、調査区の西側先端部分では認められなかったものの周濠上や周濠下からも検出されており、ほぼ全城に広がりをみる。埋土には濁褐色粘質土・灰褐色粘質土・茶褐色粘質土が認められ、遺物の出土は少ないものの、濁褐色粘質土は弥生時代、灰褐色粘質土と茶褐色粘質土は古墳の周濠を切っていることから古代もしくはそれ以降のものと考えられる。

SB-01は、調査区のほぼ中央部、地山面上で検出した梁間1間×桁行3間(2.6m×5.8m)の掘立柱建物である。ほぼ東西に主軸を持ち柱穴間距離は約0.9m~1.2mを計る。柱穴規模は平均約80cm、現存深平均約30cm程度であり、比較的しっかりした掘立柱建物と考えられる。埋土の色調は濁褐色粘質土で、柱穴内からサカイト片が出土しており、柱穴の一部が古墳墳丘下に潜っていく事から古墳造営以前のものと考える。なお、北西隅の柱穴は調査区外であったため検出できなかつた。

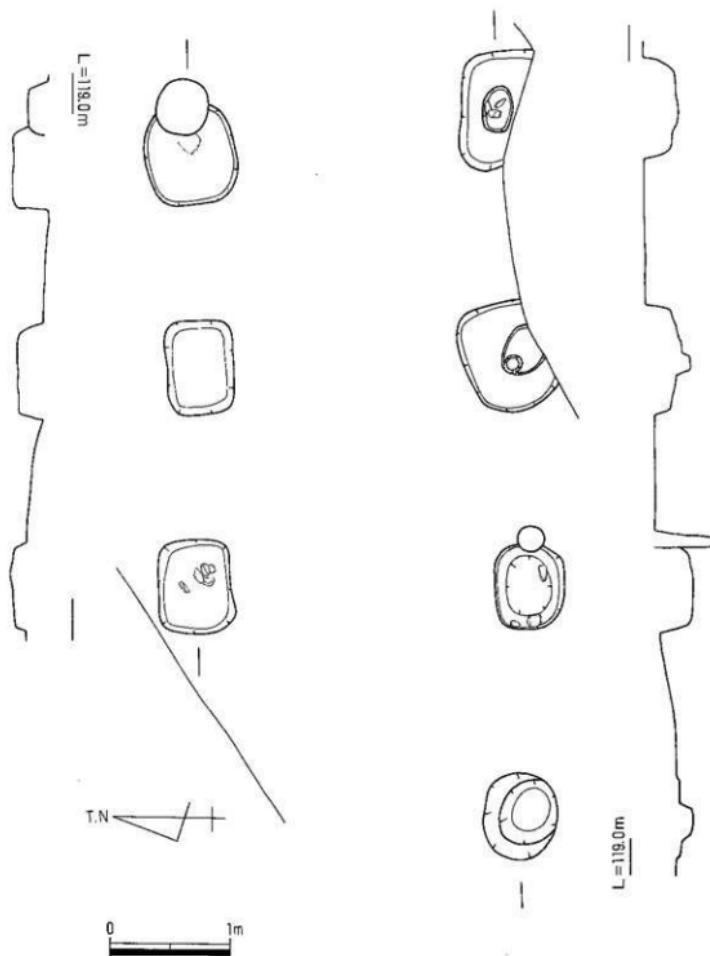
SB-02はSB-01の北で検出したものである。SB-01と同様ほぼ東西に主軸を持つものと思われるが、やや北に振っている。一部分の検出であるが、梁間1間×桁行2間もしくは3間(-×5.4m)の掘立柱建物である。柱穴間距離は約1.9m~2.1mとSB-01よりやや長い。柱穴規模は約50mm~70mm、現存深は約20mmを計る。埋土の色調は濁褐色粘質土であるが、遺物は何も出土しなかつた。北側の柱穴は調査区外のため検出できなかつた。

その他、灰褐色粘質土と茶褐色粘質土を埋土に持つ柱穴も多く検出している。

古墳は後世の削平のため、ほとんど原型を留めていない。墳丘測量の結果、現存で約1.8mの墳高を持つ。調査区が細長いため周濠は一部分の検出であるが、幅約1.08m~2.44m、深さ40m~10mを計る。周濠は調査区ほぼ中央で急に細くなり、その北側では墳丘側のみ大きく内湾するようである。周濠はさらに調査区外に続いていくため、墳形については現在のところ不明である。周濠内からは土師質の円筒埴輪片が少量出土しており、タガがついたものも認められる。その他、サカイト製石器の破損品やその剥片、奈良時代と思われる須恵器・高台付坏の底部も出土した。

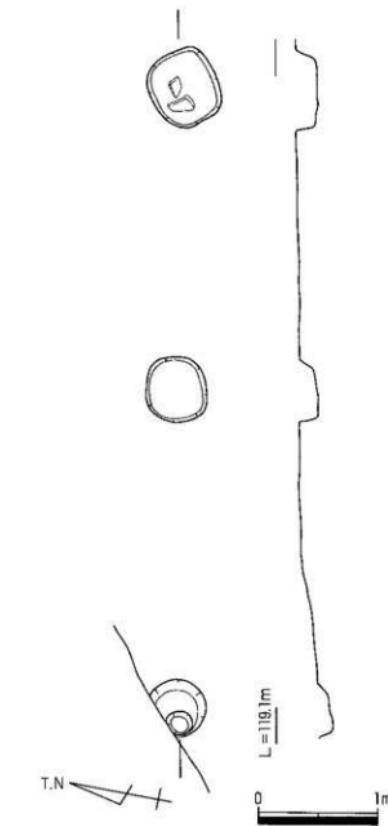


第4図 遺構配置図



第5図 SB-01平・断面図

古墳については墳丘測量を実施した。しかしながら、そのほとんどは削平を受けており、部分的に石室の石が露出した状態であった。現存する墳高は約1.8m、その規模については不明である。墳丘上には五輪塔の一部が祭られている。どこから持ってきたものであるのかは全く不明であるが、古墳の位置するすぐ北西にも2基の五輪塔が存在していることからも周辺のものであろう。



第6図 SB-02 平・断面図

第4章 まとめ

今回の調査の結果、町代2号墳の周濠だけでなく弥生時代および古代それ以降の集落址と考えられる遺構を確認することができた。これは、遺跡として周知されていなかったものであるため「町代遺跡」と呼称する。今回は遺跡の範囲の極一部を調査したに過ぎないものと思われるが、検出した掘立柱建物はその規模からもしっかりしたものであった。

時代についてはその詳細は定かではないが、柱穴内からサヌカイト製の石器片が出土していること、本来古墳の墳丘下であったこと、さらに柱穴の一部が現存する古墳墳丘下に統いていくこと、周濠内からも比較的多くの石器及びサヌカイト片が出土することから弥生時代のものであると考える。

町代2号墳は、今回古墳そのものは現状維持ということで調査は実施しなかったが、約20年前に調査されており、大林英雄氏によると竪穴式石室であったという。出土遺物は長岡公民館に所蔵されていたというが現在所在不明となっている。周濠内からは土師質の円筒埴輪が出土しているが、時代を確定できる資料は出土していない。

満濃町内では他に、大字公文字山内の富隈神社裏の古墳が円筒埴輪とさしばの形象埴輪を出土している。

町代2号墳は満濃町と綾歌郡綾歌町を画する猪山から派生した丘陵の尾根筋先端部に立地しており、眼前には阿讃山脈に源を持つ土器川が北西流する。

周辺の地形を見渡してもここは一段高くまた突出している。平成9年度は町代2号墳の南側の調査を実施するわけであるが、今回の調査結果と周辺の地形を考慮するとこの町代遺跡は複合集落としてさらに東と北に大きく拡がるものと考えられる。



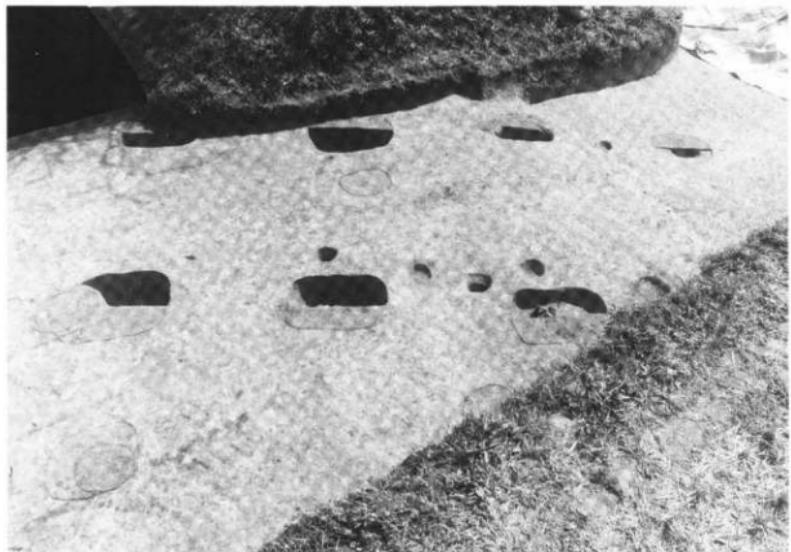
(1) 町代之号墳調査前状況(東方向から)



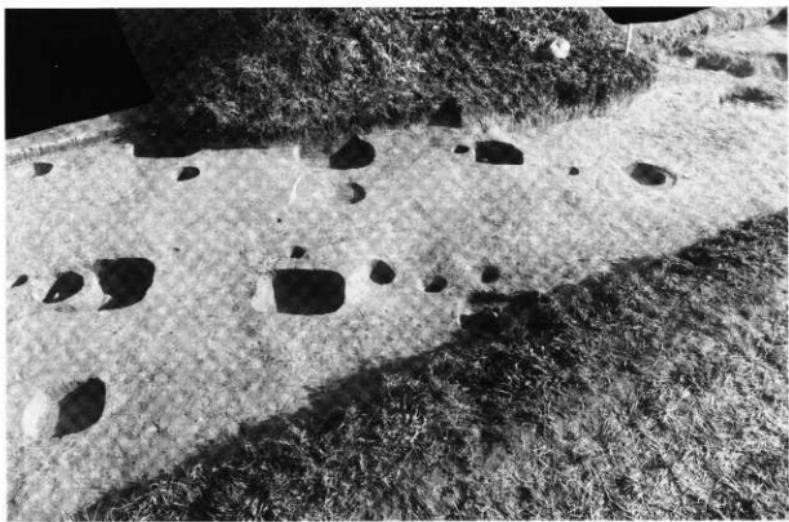
(2) 遺構全景(東方向から)



(1) 周濠完掘状況近景(北方向から)



(2) SB-01半裁状況(北方向から)



(1) SB-01完掘状況(北方向から)

町代遺跡・町代2号墳

1997年3月31日発行

編集行 満濃町教育委員会

香川県仲多度郡満濃町大字吉野下281-1

郵便番号 766 電話 0877(75)3111㈹

印刷有限公司 桂華堂

香川県仲多度郡琴平町 619

郵便番号 766 電話 0877(75)2015